

特定非営利活動法人最終処分場技術システム研究協会
会員倫理規程

(協会の使命及び社会的責任)

第1条 本協会は、最終処分場技術システム関連の研究および普及啓発を目的に「技術に上下はなく平等」を理念として、これに賛同した最終処分場に関わる団体・個人からなる非営利活動法人である。最終処分場は地域環境保全のみならず資源循環等地球環境にも必要な社会インフラであり、望まれる最終処分場システムを構築していくことは本協会の責務である。そのため、本協会が永続的に社会から信頼され必要とされるよう、本倫理規定を制定し活動に取り組む。

(公正な活動)

第2条 会員は、研究や受託業務などの遂行において公正、正確を確保する。このため、会員は、特定の権威者及び組織の評価によらない中立、公平及び平等な立場から議論し、偏りのない結論を導くとともに、研究・調査結果は厳正な取り扱いを徹底し、捏造、改竄及び盗用を防止する。

(平等な活動)

第3条 本協会における会員の立場は平等とし、会員は他の会員の意見・見解を尊重するとともに批判には謙虚に耳を傾け、真摯な態度で対応する。また、会員同士は、平等な立場でお互いに能力の向上に向けて努力する。

2 会員は、所属団体、年齢、性別及び人種などによって差別的取扱いをすることなく、他の会員の人権と人格を最大限尊重しなければならない。

(社会的責務)

第4条 会員は、社会が真に必要とする最終処分場技術システムの研究とその実用化に努めるとともに、研究成果について信頼性に対する責任を負う。また、研究成果の実用化に際しては、環境保全は当然のこととして、会員自身の利益よりも、公共の安全、国民の健康など公益確保を優先させなければならない。

(会員の自己研鑽)

第5条 会員は、技術的能力と人格の向上に継続的に取り組み、社会から信頼及び必要性が得られるよう努める。

(コンプライアンス)

第6条 会員は、本協会における活動に際し、法令、及び関係規定を誠実に遵守するとともに、倫理・社会規範に適った行動に努め、本協会及び会員に対する社会からの信頼を損なわないようにする。

(健全な活動の場の維持)

第7条 会員は、本協会での活動において、パワーハラスメント（優越的な関係に基づいて、業務の適正な範囲を超えて行われる身体的又は精神的な苦痛の付与）、モラルハラスメント（言葉や態度等により他人の人格や尊厳を害すること）やセクシャルハラスメント（意に反する性的な言動に対する対応により不利益を受けさせること、又は性的言動により就業環境が害されること）が生じないように留意し、明るく開かれた研究活動の場を維持する。

(機密の保持)

第8条 会員は、業務上知り得た情報を、研究や受託業務等の目的以外に使用してはならず、秘密情報として厳重に保管し、他に漏洩してはならない。

(教育と啓発)

第9条 会員は、保有する知識と経験等を生かして、将来を担う技術者及び研究者の指導育成に努める。また、本協会における活動を介して得られた成果は出版物、ホームページ、講演などを通じて公開に努め、より良い最終処分場技術システムの啓発に努める。

(違反者への対応)

第10条 会員に本倫理規定に著しく違反した言動が生じた場合、理事会において審査のうえ、当該会員に対して必要な措置を講じる。

(改廃)

第11条 この規定の改廃は運営委員会が起案し、理事会の議決による。

制定 2019年9月3日